

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第 21 号 2024 年 12 月 発行

巻頭言



ようやく朝晩の涼しさを実感できるようになってきた今日この頃ですが、皆様におかれましては益々ご活躍のこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症による社会不安はようやく一掃され、マスクをしている人の数は激減

し、コロナ前のごとく大阪の街中には多数の外国人観光客が戻ってきています。夜に道頓堀に行くところは異国か?と疑うような状況です。その一方で、ウクライナや中東情勢が象徴するように世界情勢は不安定で混沌としていることが垣間見えます。一体いつになったら戦火が世界から消えるのか、なぜあそこまで憎しみ合うのか、平和な日本からすると理解できない事態です。その日本も総理が代わり衆議院選挙の真っ只中ですが(10月23日)、台頭するアジア諸国に遅れをとらない日本国の繁栄を政治家がどこまで考えているのか、連日の報道をみていると甚だ疑問が湧いてきます。米英中とは異なる独自色をわが国としては出さないと埋没するところまで来ているように思われます。

私がこのように思うのは最近よくアジアに出かけるからだと推測されます。本年は、ベトナム、上海、香港、インドネシアへと毎月のように出張しましたが、どの国を訪問しても以前と大きな変貌を遂げ、IT化が進み、英語が共通語として使われています。特に、IT化において日本は大きな遅れをとっているようです。新型コロナウイルス感染症が発生した時がそうでしたが、なんでも紙ベースの仕事をしている我が国では保険医療でのデジタル化が進んでいません。ベトナムへ行くと、患者さんは、携帯電話に自分のデータを入れて持ち歩いていますので、どこの病院でもあまり不便は感じません。「変わらない」ことは安心ではありますが、「変え

ない」ことは遅れをとることに繋がります。変えてはいけない歴史は守りつつも、新しい歴史を構築しないと次のページには進めません。体型もそうですが、「変える」決断をすることは新しい自分と出会うことになります。

さて、私も2025年3月末をもって教授職を終えることになります。残された時間で肝胆膵病態内科学の歴史を振り返りつつ、この教室の関係各位が幸福感を抱かれるように日々過ごして行きたいと思います。

HEPATOLOGY NEWSをお読みいただき、本年度の医局活動についてお楽しみいただけますと幸いです。末筆となりましたが、先生方皆様のご健勝を祈念いたします。

(河田 則文)



Contents

巻頭言	1
イベント開催報告	2
新入医局員紹介	3
カンファレンス	3
腹部超音波検査講習会	4
2023年度 Medical Cafe受賞者メッセージ	5, 6
肝胆膵内科トピックス	7
大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 外来表	8
医局SNSのご紹介	8
編集後記	8

イベント開催報告 肝臓病市民公開講座Osaka Liver Festa 10周年記念 「あなたの肝臓 総点検!!」

令和6年度 第1回 肝臓病市民公開講座「あなたの肝臓 総点検!!」を、2024年7月28日(日)に大阪公立大学医学部4階大講義室にて開催しました。7月28日は、世界保健機関(WHO)が世界的にウイルス性肝炎のまん延防止、患者さんや感染者に対する差別・偏見の解消、そして感染予防の推進を目的として定めた「世界肝炎デー」です。今回のイベントでは、一般市民や患者さん、その家族を対象に対面形式で開催し、159名の方々にご参加いただきました。

前半は、小塚立蔵先生より「B型肝炎・C型肝炎のこれまでとこれから」、藤井英樹先生より「肝臓の声を聞く方法:一生ものの脂肪肝・飲酒ケア」、打田佐和子先生より「肝臓がんのみかた、みつけ方」、元山宏行先生より「筋肉は肝臓を救う?! 2024 夏季特訓」と題した講演が行われました。どの講演もタイトルやスライドに工夫が凝らされ、最新の肝臓病治療や予防に関する有益な情報を市民の皆様提供できたと思います。特に元山先生の講演では、限られたスペースの中でも運動を取り入れ、参加者と共に体を動かす工夫がされており、肝臓疾患と筋肉の関係や生活習慣改善の重要性を実感していただけたのではないのでしょうか。

講演後には、医師、薬剤師、管理栄養士によるパネルディスカッションが行われ、参加者からの質問に各専門家が丁寧に回答しました。多くの方々が関心を持つテーマに対して具体的なアドバイスが提供され、参加者からも好評をいただきました。また、会場外では、講演開始前から健康チェックの機会を設け、参加者が自分の肝臓の状態を確認できるようにしました。肝硬度測定や体組成測定(各50名限定)、全員を対象とした握力測定、希望者には骨密度測定も実施しました。これには羽生大記先生のご協力に加え、生活科学部の学生さんたちのサポートも大変助けとなりました。これらの検査を通じて、参加者は自身の健康状態を把握し、肝疾患予防の重要性を再認識していただけたようです。

今回のイベントは、記念すべき10回目の開催となりました。開始当初はC型肝炎の治療薬が次々と登場し、その最新情報を求める参加者が多かったのですが、肝臓病の成因は次第に生活習慣に関連するものが増え、さらに肝硬変や肝がんに対する薬物治療も目覚ましい進展を遂げました。コロナ禍ではリモート開催を余儀なくされるなど、イベントの在り方や運営についても試行錯誤を重ねてきました。私自身、演者や司会者として継続的に関わってまいりましたが、その間、多くのメディカルスタッフの方々が異動しつつも継続的に支えてくださったことに、深く感謝しています。また、今回の10周年を記念して、統括を務めてくださった河田則文教授に感謝の気持ちを込めて、記念Tシャツを贈呈しました。当日はやむを得ない事情で会の終了と共に早退され、記念撮影にはご一緒できませんでしたが、喜んでいただけたのではないかと思います。

今後もこのような機会を通じて、より多くの方々に肝疾患への理解を深めていただけるよう努めてまいります。ご参加いただいた皆様、そしてご講演くださった先生方に、心より感謝申し上げます。

(榎本 大)



新入医局員紹介

2024年4月より赴任させていただきました城村 星亜と申します。専攻医一年目でまだまだ肝胆膵領域に関して学ぶことも多く日々勉強の毎日です。そんな中、医局の先生方や病棟の看護師らコメディカルからも病棟業務に関して教えていただくことも多く、とても感謝しております。まだまだ未熟者ですが少しでも患者さんの生活や治療の一助になるように日々精進を重ねていく所存です。よろしくお願いいたします。

(城村 星亜)

カンファレンス

肝がんカンファレンス

当科では毎週月曜日と木曜日の科内カンファレンスの後に「肝がんカンファレンス」を行っております。肝がんに対する治療目的で入院予約されている症例全てを対象としており、症例情報を共有するとともに、治療方針を科全体で検討することで各症例に対する最善の治療選択を確認することを目的としています。近年の化学療法の進歩もあり、肝がんの治療はますます選択肢が増えています。可能な限り最善の治療を患者さんに提供するとともに、治験や臨床研究の対象症例の拾い上げにもつながるものと考えております。今後とも御協力をよろしくお願い申し上げます。

(小田桐 直志)

膵がんカンファレンス

「人口動態統計2023年」によると、がんの種類別年間死亡数で、膵臓がん(40,175人)は、1位の肺がん(75,762人)、2位の大腸がん(53,131人)に次いで3位になりました。年々膵がん患者さんは増えています。よりよい膵がん・膵疾患診療を患者様に提供できるように、毎週火曜日16時半から、膵がんカンファレンスを開催しております(@11階西病棟カンファレンスルーム)。

膵がんの診断には、複数の画像検査と生検や切除標本による病理組織検査の結果を総合的に検討することが必要です。また、効果的な治療には、手術、全身化学療法、放射線治療などの適応を正しく理解した上で、それらを組み合わせた集学的治療が欠かせません。2023年10月からこのカンファレンスを開始し、2024年9月末までに約100例(うち、新規症例は86例)の診断や治療について検討しました。消化器内科と合同で行い、科の垣根をこえて相談できる体制としたことで、診断～治療がスピーディーかつスムーズに進むようになりました。お困りの症例などありましたらお気軽にご相談ください。

(打田 佐和子)

// ソナリンピックを1年以上開催してみても

2023年に発行したHEPATOLOGY NEWSにソナリンピック開催予告をしていたことを覚えている人はきっといないでしょう。僕自身も書いたことをすっかり忘れていましたが、無事開催できましたので、この場を借りて報告させていただきます。

まず、ソナリンピックとはSonography(超音波検査)とOlympicsを組み合わせた造語で学生向けの超音波講習会です。ソナリンピックを行うきっかけとなったのは、2022年8月に開催された第54回医学教育学会で『授業をやめ、医療現場を経験すれば学生は自ら勉強する』というタイトルの講演を聞き衝撃を受けたからです。従来の医学教育は、学生が病気のことを座学で学び、医師になってから手技等を学び始める受動的な医学教育なのですが、その講演では『卒業時に医師として診療ができる』医師を育てる能動的な医学教育カリキュラムに変更しつつあるという某医科大学の取り組みが紹介されていました。そこで、これまで報告してきたような超音波実習や遠隔超音波講習会で使用してきたテスト動画を学生教育に「活かせないか?」「行ってみよう!」がソナリンピック開催のきっかけです。

対象は医学部に入りたての1年生から実習の終了した6年生です。内容は当科のHPで公開している講習動画(なんと無料!)を視聴してから、課題の画面を10秒程度/枚で描出し1回目の採点をします。終了後、インストラクターの手技サークルの学生がこっそりと指導したのち、再度課題画像を描出し合計点数を競います。もちろん最初は右も左も臓器もわからないものですから大苦戦です。それでも同期・先輩・後輩とやることで良い緊張感で講習が行えました。学生の表情がそれを物語っています。基礎医学はもちろん大事ですが、医療・手技をしたくて医学部に入ったのでモチベーション維持のために低学年から医師に必要な手技に触れていただく機会は必要と感じました。また学生をインストラクターに据えたのは“Teaching is learning.”(教えることは学ぶこと)が自然と行える環境にしたかったからです。

最後に、学生たちは今後の医療の中心を担う頼もしい後輩であり、仲間なので大切に育てたい。そのための仕掛け、きっかけを試行錯誤しながら作っていければよいのかなと思います。楽しみながらも気が付けば手技・技術が身についているような講習会を作り上げるのが最終目的で、この会に共感してくれる仲間が増えればよいなと切に願います。

(元山 宏行)



2023 年度 Medical Café 受賞者メッセージ

河田 賞

この度は2023年度のMedical Caféにて、名誉ある「河田賞」を頂き大変光栄に存じます。

Medical Caféでは、肝線維化と脂質代謝異常をテーマとした研究を発表させて頂きました。患者さんからご提供頂いたサンプルでの脂質代謝物の網羅的解析(リピドミクス解析)から肝線維化に関連する脂質代謝物を同定し、更に、それが肝内でどのように代謝されるのか、患者さんからご提供頂いたサンプルおよび疾患モデルマウスで検証し、in vitroでの検証を進めております。豊富な臨床検体を使用して、臨床・基礎研究に取り組めましたのも、河田先生、榎本先生や医局の先生方、同門会の先生方、基礎研究室の先生方のお力添え、また研究のためにサンプルの提供等のご協力をして下さった患者さんのお陰であり、心より感謝申し上げます。

私は大学院の間、本課題を通じて研究についての様々な手法や考え方を学ばせて頂きました。自身の検討から未知の発見に触れるのは感慨無量です。肝・胆・膵疾患は非常に奥深く、未解明の事象が山積しております。今後は、諸先輩方に続いて、引き続き世界にOMU・肝胆膵内科発の研究成果が発信できるよう、またより良い医療の発展に貢献できるよう、日常診療は勿論、サンプル・データの取得や研究費の獲得、研究成果の発信、後輩の指導等に取り組んでいきたいと存じます。まだまだ未熟者で、理想には遠く及びませんが、引き続きご指導・ご支援頂ければ幸いです。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

(池永 寛子)



敢闘賞



Five years of living here will always be the most wonderful time of my life. It has provided me with countless opportunities for learning and personal improvement. I understand that hardship and workload are part of the challenges I must face in order to complete my course. However, thanks to the support of all the teachers and colleagues around me, I will be able to overcome them with ease. The Fighting Spirit Award that I received from the 2023 Medical Café represents the collective effort of everyone involved, and I am truly honored to accept it on their behalf. I deeply appreciate the wonderful time I've spent here, and I sincerely wish a bright future for everyone in the Medical School, especially my beloved Department of Hepatology. Thank you very much.

(Ngo Vinh Hanh)

// 2023 年度 Medical Café 受賞者メッセージ

特別賞

2023 年度 Medical café 特別賞を受賞して

インタビュアー(以下I): この度は河田賞受賞、おめでとうございます!

藤井(以下F): あ、ありが、...と

I: 率直に、今のお気持ちを聞かせて下さい!

F: まあ、...ね。正直、あんなのもらっていいのかなってのいうのは、...ありますね

I: あのパフォーマンスをした動機は、なんですか?

F: うん、まあ、河田賞も次回(2025年3月)で最後じゃない?それまでには一度はもらっときたい、とは思ってたんですね。ただ、ほら自分の表現活動って、ちょっとUnderstandしにくい部分があるじゃない。ちょっと内省的というか。初期の山下達郎的な

I: よく意味が分からないのですが、どうしてあの曲(テツandトモ「なんでだろう」)を思いついたんですか?

F: ...、うーん、そうね。あの時期は丁度、クリエイターの端くれとして、自分は何故この仕事をし続けているのか、適性はあるのか、について想いを巡らせていたんだよね

I: 山下達郎的に、ですか?

F: そう、アルバム『僕の中の少年』のヤマタツね(アルバムを全曲振り付きで歌い上げるが音程が大幅に外れている)

I: あの、山下達郎、好きなんですか?

F: まあ、好きかと言われれば好きになるかな。あるクリスマスイブが土曜日でさ。いつものバーで『クリスマスイブ』を聞いていたんだ。あの店、最近新調したオーディオセットが良くてさ。客が僕だけだから、大音量で聴きつつ、歌ったわけよ。『ひと〜りぼ〜っちの、クリスマスイ〜ブ』、なんてね(笑)。あの時は2時間粘ったけど、本当に客は僕一人きりだったね。今じゃ素敵な思い出の一つさ

I: (咳ばらい)話を戻します。あの時のスライドの内容は、後で見直したんですか?

F: (慌てて)とんでもない! それはないね。表現って、瞬間的なものじゃない?あれは、芸人がいう『掛け捨て』、ってやつなんだ。こんど10月10日に浅草キッドが復活漫才をするけど、あれと一緒に。とにかく、その瞬間瞬間に、命かけてんだい、こちとら(様子が変わる)

I: (心底呆れながら)では、時間も無いので最後の質問です。あなたにとって河田教授を一言で表すと、なんですか?

F: ...、(5時間ジタバタした後、意を決して)
アジャラカモクレンテケレッツのパー、だね

I: 何やようわからんわ!どうも、有難う御座いましたー!

(2人、退場)

(藤井 英樹)



肝胆膵内科トピックス 胆管がん治療の潮流

胆管がんは目立ちませんが、国内では毎年約2万2千人が診断され、死亡数は約1万8千人となっており、難治がんです。切除可能胆管がん、進行胆管がん共に治療方針が変わりました。切除可能胆管がんでは、術後補助化学療法としてのS-1投与の有用性が2023年に証明され標準治療となっております。一方、進行胆管がん治療は免疫チェックポイント阻害薬とがん遺伝子パネルを駆使する時代となりました。進行胆管がんに対する標準的な第一選択薬は長きに亘りシスプラチンとゲムシタビンの併用療法でしたが、抗PD-L1ヒト型モノクローナル抗体であるデュルバルマブ（商品名：イミフィンジ）の上乗せ効果が認められ2022年に保険承認されました。また、抗PD-1ヒト化モノクローナル抗体であるペムブロリズマブ（商品名：キイトルーダ）の上乗せ効果も認められ2024年に保険承認されました。がん化学療法後に増悪したFGFR2融合遺伝子陽性の切除不能胆管がんに対して、ペミガチニブ（商品名：ペマジール）が2021年に保険承認され、フチバチニブ（商品名：リトゴビ）が2023年に保険承認されました。胆管がん患者の中でFGFR2融合遺伝子陽性例は非常に少ないですが、手術検体または血液検体をがん遺伝子パネル検査に出すことで診断できます。著効例があるのでがん遺伝子パネル検査は検討すべきです。

このように胆管がんは免疫チェックポイント阻害剤やがんゲノム診療を駆使して治療する時代になろうとしています。

（萩原 淳司）



2024年4月8日撮影

大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 外来表

	月	火	水	木	金
5 診	榎本 大	藤井 英樹	河田 則文	榎本 大	萩原 淳司
6 診	打田 佐和子	小塚 立蔵	打田 佐和子	藤井 英樹	元山 宏行
7 診	元山 宏行	小田桐 直志	川村 悦史	小塚 立蔵	武藤 芳美
8 診	小谷 晃平	池永 寛子	小谷 晃平	小田桐 直志	焦 光裕

大阪公立大学医学部附属病院 肝胆膵内科 ☎ (06) 6645-2121 (代表)

初診受付：午前 9 時～午前 10 時 30 分 休診日：土日祝日、年末年始

肝胆膵内科では紹介状持参の上、初診受付時間内にお越しいただけたら当日、診察いたします。

大阪公立大学医学部附属病院 MedCity21 ☎ (06) 6624-1324

【完全予約制】電話受付時間：月～金 午前 9 時～午後 4 時 30 分

医局 SNS のご紹介

肝胆膵内科ではFacebook、X (旧Twitter)、LINEを用いた広報活動を積極的に行っております。

お気軽に参照いただければ幸いです。

また、打田先生が中心となり、腹部超音波の動画をまとめてYouTubeチャンネルに公開しておりますので、合わせてぜひご覧ください！先生方のご施設の若手の先生にもご紹介下さいませ。



医局HP

<https://www.med.osaka-cu.ac.jp/liver/>



医局のLINE ID

@601nelbn



医局Facebook

<https://www.facebook.com/omum.hepatology>



医局X (旧Twitter)

<https://twitter.com/kantansuinaika>



YouTubeチャンネル

OMUH-Hepatology

<https://www.youtube.com/@omum-hepatology3728>

YouTubeチャンネルです。スマホからどうぞ！

編集後記

今日は2024年10月25日 金曜日です。明後日に衆議院の総選挙があり、11月にはアメリカ大統領選挙が控えています。肝胆膵内科に目を移すと、10月21日に2人目の入局者があり、嬉しい悲鳴をあげています。皆様が健康で仲良く仕事出来る職場になればいいなあ、と思っております。来年も肝胆膵内科を宜しくお願いします。

(藤井 英樹)

HEPATOLOGY NEWS

肝胆膵病態内科学ニュース

第 21 号 2024 年 12 月 発行



発行者 / 大阪公立大学大学院医学研究科

肝胆膵病態内科学

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

TEL : 06-6645-3905 FAX : 06-6635-0915

編集委員 / 藤井 英樹